

コロナ禍で資格試験はどう変わった!?

— 受験者数と今後の展望

◆ 昨年は資格試験の中止・延期が相次ぎましたが、
受験者数はどう推移したのでしょうか。 ◆

・ 日商簿記試験 3 級（受験者数の制限あり）

2020年11月試験 → 64,655人

前年比81%

・ FP 3 級（FP協会主催）

2020年9月試験 → 31,247人(学科試験)

前年比140%

金融財政事情研究会主催の試験も前年比129%と大幅な伸びを見せました。

・ 宅建士（12月の追加試験との合算値）

2020年10月試験 → 204,247人

前年比93%

簿記の11月試験は感染防止の観点から受験者数を制限したため大幅に減少しました。一方でFPの大幅な増加は5月試験が中止になった影響によるもので、今年の1月試験も前年比24%増。宅建士は中止ではなく試験を2回に分ける措置をとったため大きな減少は見られませんでした。FPの人気の背景としては、FPは合格率が高く（＝それほど難関ではない）、お金について学びたいというニーズの高まりが挙げられます。宅建士は平成27年に「宅地建物取引士」と改称され士業になったこと、また宅建士しかできない業務がある（＝業務独占資格）ことが考えられます。

今年から簿記は従来の試験方式に加えネット試験が導入されたため受験者数は増加する見込みで、FP・宅建士についても不動の人気資格であることは変わらなそうです。

その他の主な試験の昨年受験者数（カッコ内は前年比）

- ・ 税理士 → 26,673人（90%）
- ・ 司法試験 → 3,703人（83%）
- ・ 中小企業診断士 → 11,785人（80%）
- ・ 社労士 → 34,845人（91%）
- ・ 行政書士 → 41,681人（105%）
- ・ 司法書士 → 11,494人（84%）